

かることも想定される。また、団地内には高低差があるため、傾斜路も負担を増大させている。

さらに、この団地は階段型住宅で建て住棟であり、高年齢者、車を運転しない若者や高齢者、さらには子ども

大学の授業の一環で、神

1つ目は、この団地は歩車分離を意識したつくりにはなっているものの、完全な歩車分離にはなっていないことである。

動線計画に改善点あり
不完全な歩車分離、抽選の駐車場

入ってきてしまったため、歩くなると感じた。

齡者にとつては負担が大きくなると感じた。

これら2つの問題に対する解決策として、駐車場の

齋藤さんが書いているように、この団地は駐車場か

が必要と言える。

一方で、75歳を超えると車の運転免許を返納する人も多くなる。つまり、高齢

外構の改善も重要だが、運用上の工夫や新しいモビリティの活用を含め、高齢者が外に出たくなる解決策の

2つ目は、駐車場から住戸までの距離についてである。住民が利用する駐車場の場所は抽選で決める。2つ

場所は高齢者や子どものいる世帯を優先して決定すること、バイク置き場を歩行者と接触するリスクな高齢者の場合は10分近くか

化が進むにつれて、車を使わない生活スタイルに変化していくことが考えられる。

検討が望まれる。こうした検討が、高齢化が進む団地の現実的な対策につながるのではないか。

歩道にしていた。これだけを見ると、完全な歩車分離が成立しているように見える。しかし、この団地は公道を挟んで東西に分けられていて、駐車場から住戸に行くためにはこの公道を渡

である。そのため、抽選結果によっては戸戸から駐車場までが著しく遠くなる場合が生じる。南西の住棟から最も遠い北東の駐車場までは約350mあり、歩くと4〜5分ほどかかる。高

敷地外周部に設けることが考えられる。また、敷地内は高低差があり階段も多いため、バリアフリー化を目指すうえで、スロープの増設が必要不可欠であると考えた。

エレベーターが無い。したがって、駐車場から重い荷物を手に持ち、10分かけてやつの思いで自分の住棟にたどり着いたとしても、そこから階段を上らなければならぬケース

もたちなど、すべての人が
平等に移動しやすい団地で
あることが望ましい。

階段室型5階建て住棟へ
のエレベーターの増築につ
いては多くの研究がある
が、実現は難しい。